

千葉大学大学院教育学研究科 教育課程編成・実施の方針（修士課程）

「自由・自立の精神」を堅持するために

- 教育にかかわる高度職業人・研究者を目指す学生に、社会の規範やルールを尊重しつつ幅広く深い学識を修得させる教育課程を編成し、提供する。
- 教育学を中心として多様な学識を知の基盤として統合させるとともに、課題に対する柔軟な思考と深い洞察力に基づき、統合された知の基盤を活用して、継続的に自己を評価・検証しつつ主体的に行動する能力を涵養する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

- 地球規模の視点から、教育学に関する社会的・文化的位置づけを理解させ、幅広い学識を修得させる教育課程を提供するとともに、留学をはじめとする多様な海外活動の機会を提供する。
- 教育にかかわる高度な専門知識と柔軟な思考、深い教養、総合的な判断力、豊かな人間性、学問への強い関心を活用して課題に主体的に取り組み、その成果をグローバルに発信したり他者と協働したりするための学術英語をはじめとしたコミュニケーション能力を涵養する。
- 海外での活動をはじめ学外における長期の研究の際に継続的な学修・研究指導を受けられるよう、情報通信技術を活用した学修・研究指導の基盤を整備する。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

- 教育学に関する高度な専門知識、柔軟な思考力、論理的思考や表現の手段を涵養し、専門性の高い研究能力を修得できる学修の機会を提供する。
- 知識集約型社会における学問分野の様々な革新に資する学修の機会を提供する。

「高い問題解決能力」を育成するために

- 教育学を中心とする専門知識を統合・整理することにより、高度教養教育を含む課題解決能力の向上、コミュニケーションやプレゼンテーションの能力の涵養を目指した学修の機会を提供する。
- 教育学にかかわる専門家としての実践的な問題解決能力を養うために、チームワークやリーダーシップを学べるような学修の機会を提供する。

「学修成果の厳格な評価」のために

- 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
- 講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- 実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。
- 学位論文は、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公正に行う。